

「過去」と「現在」のあいだから日本を考える

清水 唯一朗

なぜこのクラスを取りましたか？—「過去」と「現在」のあいだから日本を考える

- † 楽勝科目として「日本の近現代」？ 2年に1回の日本語講義？
大教室講義から、100人限定のインタラクティブへ
- † 世界のなかの「日本」研究
慶應から見える世界の「日本」研究、それ以外から見た世界の「日本」研究
- † 日本を語る知識と日本を論じる理解
事実と「事実」、解釈はつねに変化し続けていく。

このクラスはどう進められるか

- † ボーディングパス—アタマの準備体操
- † アウトラインとプレリマーク
- † ケーススタディとプロセス—過程、判断、可能性、作為と不作為
- † 構造アプローチ—環境、制度、組織、人、思想、行動
- † アフターリマーク
- † 特別講演（世界のなかの「日本」研究）とコンクルージョン

このクラスで用いるアプローチ—（歴史）政策論と（歴史的）制度論

- † 「歴史の活用」と「歴史の誤用」のあいだ
- † 「政策の形成者は、歴史が教えたり予告すると信じるものに影響される」
- † 「政策の形成者は概して歴史を誤用する」
- † 「政策の形成者は、歴史をもって選択して用いることができる」
- † 歴史的制度論アプローチ—「ロックイン」と「経路依存」
→「制度」はより広く捉えることができる、広く捉えられるべき

評価の方法

- † 最終レポート（100%）
本講義の目的に沿い、個別知識ではなく全体の構造理解を問います。
- † 任意レポート（各回 15%内で加点） SFC-SFS に UP のうえ、ハードコピーを提出。
推薦文献の任意レポートを2回設定（予定：5月22日、7月10日）。
- † プレリマーク、アフターリマーク（任意提出）
各回 5%の範囲で加点。毎週木曜 18:00 までに研究室（E307）前ボックスへ。
- † 参考文献
各回のレジュメに示します。全体を通じた文献は SFS の参考文献欄を参照。

全体を通じた文献（抜粋）

- 北岡伸一『日本政治史』（有斐閣、2011年）：通史的な理解に便利です。
- 三谷太一郎『日本の近代とは何であったか』（岩波新書、2017年）：構造的な理解ならこれ。
- A. ゴードン『日本の200年』上・下（みすず書房、2013年）：世界的な定番。

